

◆ 今週のコメント

- ・ 水痘の定点当たり報告数は1.51(62例)で、先週(1.22)に比べ増加しました。
年齢階級別では、2歳が16例と最も多く、次いで1歳(11例)、3歳(6例)の順となっており、1歳から3歳までで53.2%を占めています。
- ・ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は1.46(60例)で、第23週(6月4日～6月10日)以降、減少していますが、依然として過去5年平均値を上回っています。
年齢階級別では1歳以上で報告があります。4歳が11例と最も多く、次いで6歳(9例)、3歳(8例)、4歳(8例)となっており、3歳から6歳までで60.0%を占めています。

◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.41(17例)で、本市では先週(0.56)に比べ減少しましたが、全国では増加しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 8例(肺結核 3例, その他結核 2例, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性 2例
【1月以降の累積報告数 210例(肺結核 86例, その他結核 45例, 潜在性結核感染者 79例)うち喀痰塗抹陽性 48例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	-	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.83	198
	② 水痘	1.51	62
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.46	60
	④ ヘルパンギーナ	0.41	17
	⑤ 突発性発しん	0.34	14
眼科	流行性角結膜炎	0.50	5

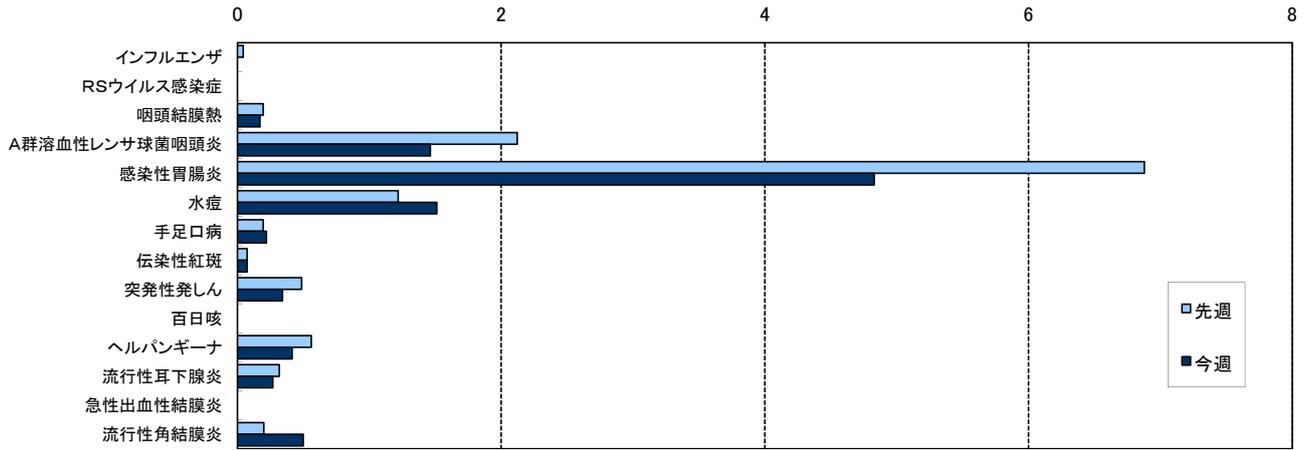
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

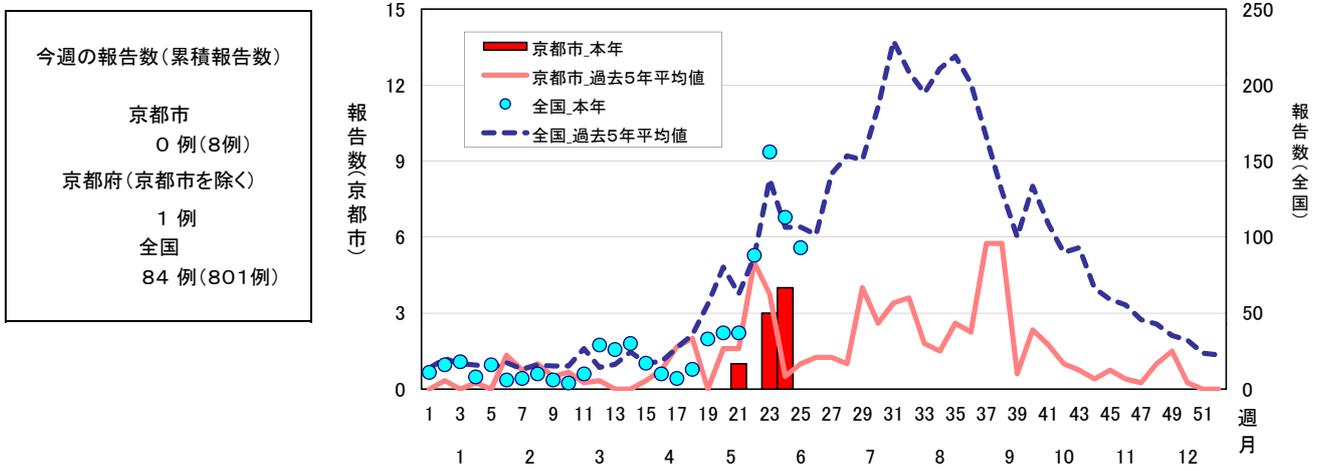
(注) 京都市のデータは、平成24年6月28日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第25週)と先週(第24週)の定点当たり報告数の比較

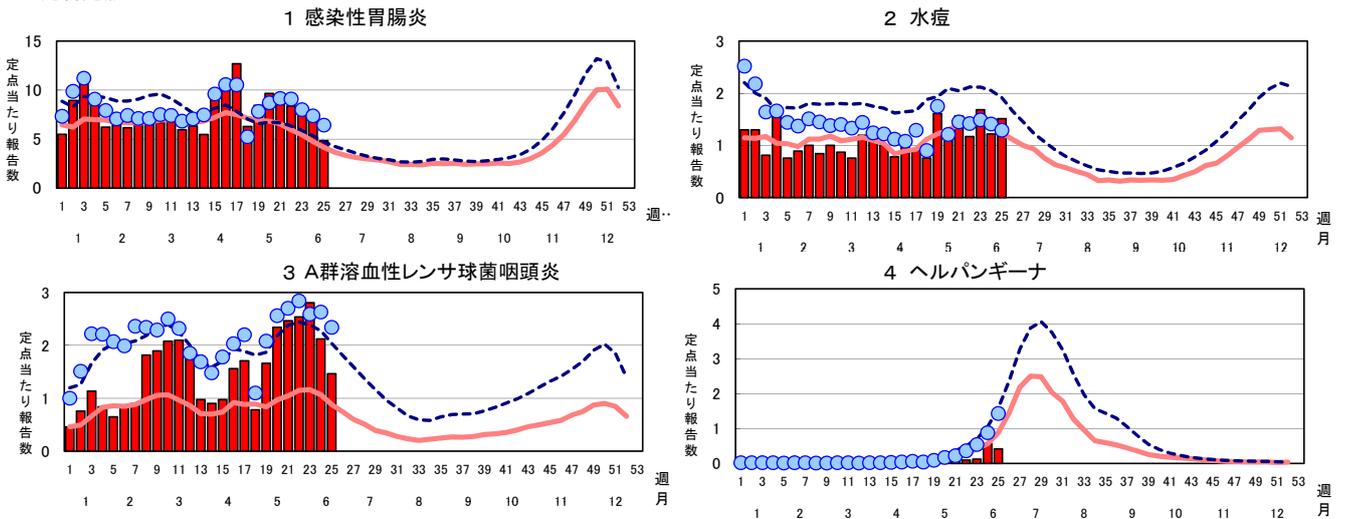


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

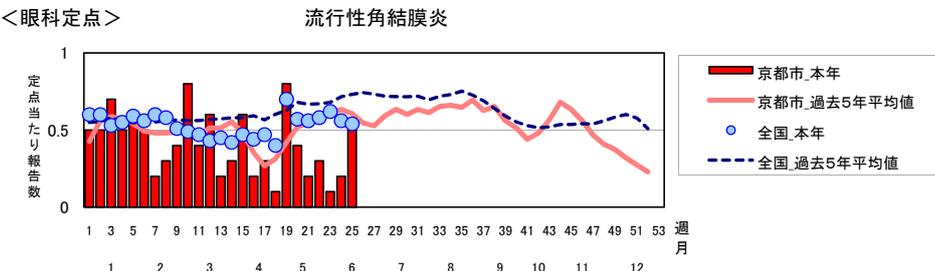


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



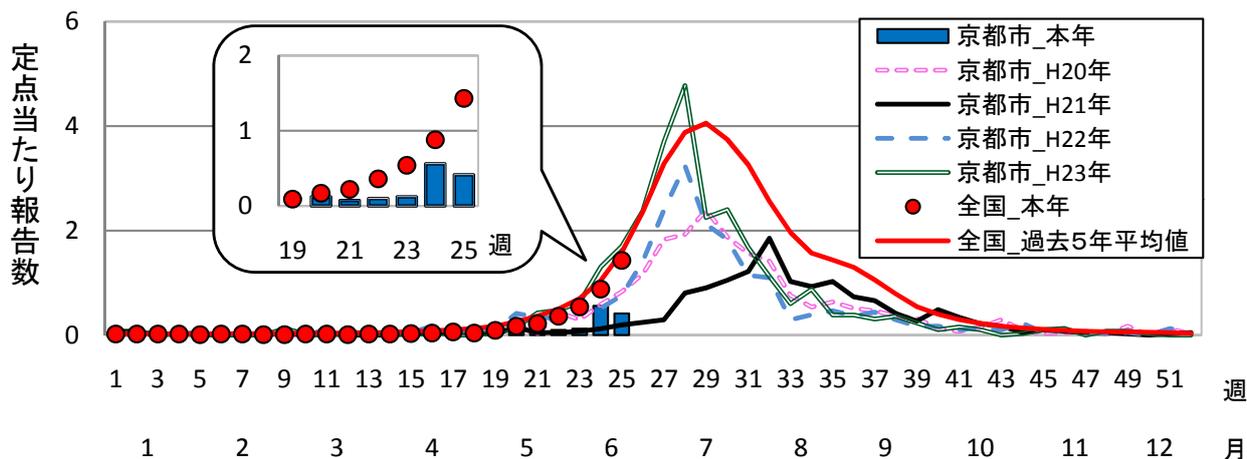
第25週(6月18日～6月23日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は0.41(17例)で、本市では先週(0.56)に比べ減少しましたが、全国では増加しています。ヘルパンギーナは季節性が明確で、毎年7月から8月にかけて流行しますので、今後の動向に御注意ください。

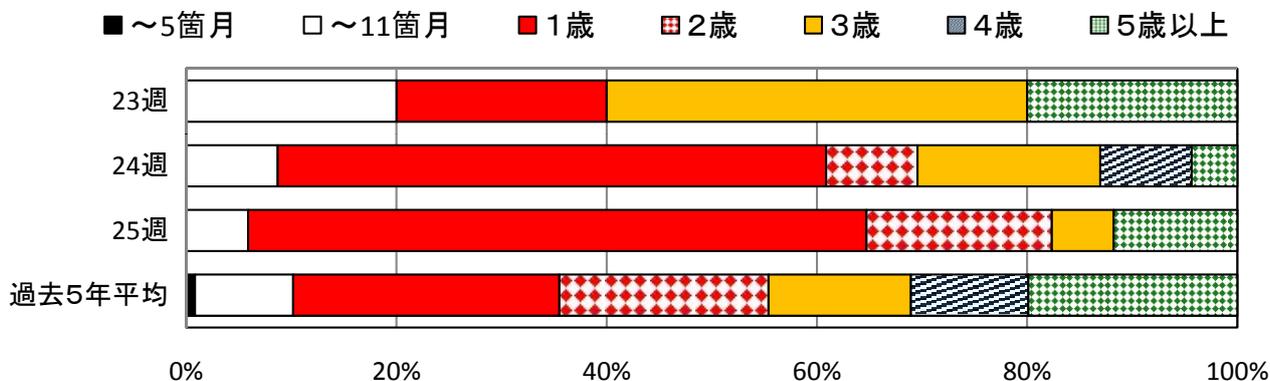
年齢階級別にみると、1歳が10例で58.8%を占めており、1歳の割合が多くなっています。

京都市及び全国で検出された、ヘルパンギーナ由来のコクサッキーウイルスは、平成20年と平成22年にはコクサッキーウイルスA(CA)2及びCA4が、平成21年と平成23年にはCA6及びCA10が多くなっています。本年、全国ではCA4が6件、CA2が5件、その他のコクサッキーウイルスが3件検出されています。(平成24年6月29日現在)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



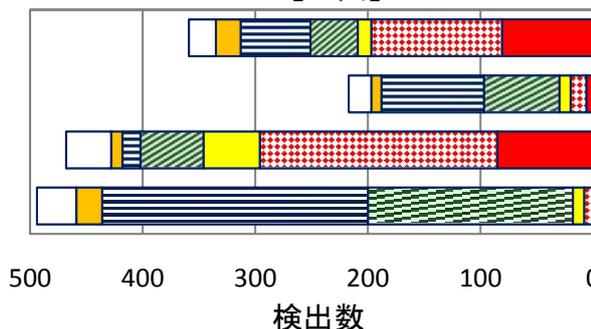
年齢階級別定点当たり報告数の推移



本市及び全国からのヘルパンギーナからのコクサッキーウイルス検出数

■ CA2 ■ CA4 ■ CA5 ■ CA6 ■ CA10 ■ CAその他 □ CB

【全国】



【京都市】

